

## 調査報告書より優れた取組・工夫について

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
目指す学校像		なし		
重点目標		なし		
重点目標達成への取組状況	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか	春日部工業高校	<p>学校評価懇話会の意見をまとめて、教職員に伝え、共通理解が図られている。評価項目や方策が、「1年1・2学期の基礎学力向上対策に重点的に取り組む」など具体的に示されており、重点目標の達成に向けて本年度重点的に取り組むものとしてふさわしく、優れた取組が実践されている。</p>	<p>年度の目標を設定するに当たっては、単年度目標という意味を十分に踏まえて、重点的に取り組むピンポイントの目標、方策を設定することによって、教職員がいつ何に取り組めばよいのかを明確にし、教職員のベクトルを同じ方向に合わせており、学校全体で優れた教育活動が展開されている。</p> <p>一例として、「1年1・2学期の基礎学力向上対策に重点的に取り組む」という重点化した評価項目が設定されている。1年生の基礎学力向上を重要課題としてとらえ、昨年度は1年生対象の基礎学力支援補習を1学期のみ実施したが、実施後の反省を踏まえ、今年度は2学期までの実施へと取組の見直しを行った。その際には、実施間隔を延ばすことで開催回数は昨年度並みに抑え、教員の負担増にならないように工夫した。また、対象の生徒も、1学期当初の宿題テストの結果で1学期の補習受講者を決定し、2学期の対象者は1学期の期末の成績で決めるなど、効果的な運用を行っている。その結果、1学期では30名程度いた補習対象者が2学期では7名に減少するなど、確実に成果を上げている。</p>
		進修館高校	<p>評価運営委員会と分掌・学年等が連携しながら目標達成を目指す体制が整えられている。進行管理のための中間報告を作成し、遅刻者数やホームページアクセス数など重点目標の達成に向け根拠データや資料が組織的に収集・整理されており、学校評価懇話会等で得られた学校関係者の意見を学校運営にうまく活用した優れた取組となっている。</p>	<p>遅刻者数やホームページアクセス数、資格取得者数など年度当初に設定した方策の評価指標について組織的に分掌・学年等から数値データや関連資料を豊富に情報収集し、重点目標の達成に向け、根拠となるデータを基に中間報告を実施している。中間報告は職員会議等で教職員全体で共有している。その結果、例えば「1学期遅刻者数が前年度比約51%減少」といった経年変化を年度途中に共有できることとなり、生徒等の実態や変容の適切な把握・分析を可能にしている。</p> <p>重点目標3（教育活動を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を目指す。）の達成に向け、学校評価懇話会や学校評議員会等で出された学校関係者の意見等を積極的に生かし、例えば「進修館通信」を行田市内全家庭に回覧し実施回数を前年度比2倍にするなど、改善できることはすぐに実行する姿勢で学校運営の改善に取り組んでいる。</p>

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか	さいたま桜高等学園	学校が独自に開発した『今の自分は』チェックシートは、生徒本人・学校・保護者が記入しやすく工夫が重ねられ、三者面談で活用されるなどして具体的な成果も現れている。課題の分析に基づいた、評価項目を達成するための具体的な方策が策定され、実施されており、組織的・効果的な優れた取組となっている。	重点目標3「生徒の自己理解を深め、学校生活を通して意欲や社会性を育てる」の達成に向けて考案された『今の自分は』チェックシートは、平成25年度に試行で始め、昨年度から本格実施している。生活習慣や教科学習、人との関わり等に関連した約60項目について1年間の伸び具合を生徒本人・家庭・学校がそれぞれの視点で年2回○や△でチェックし、個別の支援計画や三者面談に活用している。1年生の時○でも子どもが成長して自己理解が進んだ結果△になることもあるので、○の数を競うものではない。教職員、保護者にもよく共通理解が図られており、「なぜこのような記入結果になったのか」をそれぞれの立場で考え意見交換することによって、本人理解に役立てられている。 このようなチェックシートを活用して生徒個々の自己理解や社会性の課題を明確化し、家庭と学校が課題を共有化することにより、教職員の組織的かつ丁寧な指導につながり、就労の実現にもつながっている。
		松山女子高校	学校進学カパートナーシップ推進事業に取り組む中で、教職員間に授業改善や進学指導の一層の充実に積極的に努力するという雰囲気醸成されている。なかでも、授業改善の取組は教職員間の共通理解から生まれたものであり、教職員の高い参画意識に支えられ、何事にも真摯に取り組むという学校文化とも相まって、組織的かつ効果的な優れた取組となっている。	学力の向上を目指し、様々な取組を展開しているが、教職員が学校改善に向けた話し合いを深め、それを見守る校長が適切な助言を行うことで、教職員の主体的な取組が進むようになった。特に、生徒による授業評価の結果を真摯に受け止め、学校改善の柱に「授業改善」が必要であると教職員自らが自覚し、その思いを組織的な取組へと高めている。学校改善の参画意識が高まったことにより、土曜授業、学校進学カパートナーシップ推進事業などにおいて、教職員がより一丸となって取り組むような変化をもたらしている。また、生徒たちに長い歴史の中で多くの卒業生に見守られているという意識を持たせ、そのことに感謝の念を抱かせるように指導することで、生徒たちの心に訴える教育活動を展開している。近隣の小・中学校や特別支援学校、幼稚園等との交流などの地域に深く根付いた取組、さらには、オーストラリア海外授業体験事業、職種別に多くの講師を招いた進路ガイダンスなどの体験を重視した取組は、生徒の心の育成につながる好事例である。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか	川越工業高校	校長が学校の現状や課題を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長の的確なリーダーシップの下、地域や企業との連携等の取組を精力的に実施するなど、教職員の共通理解を深めながら教育活動に取り組んでおり、優れた取組となっている。	校長が学校のあるべき姿として「本県工業高校のフラッグシップ校」と分かりやすく打ち出すことで、生徒・教職員の意欲が引き出され、学校全体の士気が高まり、様々なことに意欲的に取り組んでいる。日本一の工業高校を目指し、校長自ら精力的に地域や企業を回るなど、外の風を積極的に取り入れ、生徒・教職員に刺激が与えられることで、学校が一丸となって新しい取組に果敢に挑戦しようという雰囲気が醸成されている。例えば、大手家電メーカーとのコラボレーション（共働・協力）によって乾電池による電車走行の世界記録に挑戦した取組は、メーカー等と連携・協力関係を構築したことが生徒・教職員の士気を高め、その結果、電気科やデザイン科の生徒・教職員が組織的に取り組んで成果を上げた好事例である。

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標達成への取組状況	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか	さいたま桜高等学園	校長が教職員に意向を示し、重点目標や評価項目などの共通理解を図っている。校長の的確なリーダーシップの下、就労支援に関わる業務内容と役割分担が見える化するとともに、学校全体で業務の絞り込みや改善を進めている。教職員が共通理解を持って組織的・計画的に教育活動に取り組んでおり、優れた取組となっている。	<p>年度当初に校長より今年度の学校運営の基本方針を教職員にしっかりと伝えている。グランドデザインを毎年見直して学校内外に示す他、今年度は「しぼる（絞り込む）」をテーマに教職員の業務改善のための指針をA4判1枚のペーパーに見やすく示して、教職員の共通理解を図る工夫をしている。就労支援に関わる業務内容と役割分担の見える化については、担任と就労支援担当、進路指導部、学科主任等の役割を明確化することによって就労支援業務の効率化を図ろうという「しぼる（絞り込む）」というテーマに沿った取組の一つである。</p> <p>校長が1つ1つの取組についてなぜそれをしなければいけないか、どのような手順を進めたらよいかをはっきり教職員に示すことによって、教職員一人一人が明確な目的意識と共通理解を持って主体的にアイデアを出し合い、組織的・計画的に教育活動に取り組んでいる。</p>
		秩父特別支援学校	学校自己評価と人事評価の日程を調整することで目標の連鎖を徹底し、チームとしての取組の中で大切にすべきことを教職員間で共有化するなど、教職員一人一人の能力を生かしながら学校全体の組織力を高めようとしている校長の意欲が感じられる。校長の的確なリーダーシップの下、学校グランドデザインの共通理解が図られ、組織的・計画的に教育活動に取り組んでおり、優れた取組となっている。	<p>教職員の目標の連鎖を図り組織力を向上させるため、年度当初の職員会議等で学校評価と人事評価の年間スケジュールを全教職員に示し、分掌・学部等のシート完成後に人事評価のための自己評価シートの提出日を設定するなど、年度当初と年度末の日程調整を工夫している。平成27年度の場合、年度当初は5月19日までに分掌・学部等のシート、5月29日までに自己評価シートを提出する日程とし、年度末は1月19日までに分掌・学部等のシート、1月22日までに自己評価シートを提出する日程としている。</p> <p>校長はチームでの取組の中で大切にすべきこととして、1児童生徒の特性を理解している、2気持ちに寄り添うことができている、3働きかけが一時的なものになっていない、4一人よがりになっていない、5一人ひとりを大切にしている、について日頃から職員会議等で教職員の意識への浸透を図り、チームで行動することが多い特別支援学校を円滑に運営しようと努めている。学校グランドデザインを作成し、校内の目立つ場所に掲示するなどして教職員の共通理解を図っている。</p>
		日高高校	校長は組織力を高め、学校自己評価システムを生かした学校経営に取り組もうとしている。校長のリーダーシップが的確に発揮され、企画委員会が適切に機能しており、教職員のチームワークを引き出しながら、全体で組織的な優れた取組を展開している。	校長の的確なリーダーシップの下、経営ビジョンをグランドデザイン化して教職員間で共通理解を図るとともに、教職員がベクトルを合わせてチームワークを発揮しながら様々な教育活動に取り組んでいる。規律ある態度と豊かな心の育成を学校教育の柱の一つに位置付け、「自分発見！高校生感動プログラム」の指定を受け、社会貢献活動として地元行事のボランティア参加や通学路の清掃、農業体験、アドベンチャー教育など、体験的な教育活動に力を入れて取り組んでいる。また、学校自己評価システムを有効に活用すべく、中間での振り返りを行うために、今年度から拡大評価運営委員会を立ち上げた。この委員会は、主幹教諭を長として、通常の企画委員会のメンバーにすべての分掌主任を加えた構成とし、取組の中間報告資料を作成・報告させるという取組を行っている。その結果、年度途中での達成目標の再確認と達成に向けたプロセスの再調整により、年度の達成目標に向けて教職員がベクトルを揃えて取り組むことに成功している。

	観点	学校名	報告書所見	具体的な取組
重点目標 達成への 取組状況	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか	秩父特別 支援学校	<p>幼小中高86施設に対するアンケートの実施や保護者向けの「意見箱」の設置等、地域・保護者から幅広く学校自己評価のための情報が収集されており、意見に対して適切に保護者等へフィードバックがなされている。各種アンケートや学校関係者の意見などを共有し、評価・反省に生かして、次年度の課題・解決策として継続的に積み重ねて取り組んでおり、優れている。</p>	<p>学校自己評価のために12月から1月にかけて、秩父地域1市4町の幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校（86施設）を対象に郵送形式でアンケートを実施している。多くの意見を関係機関から幅広く得るために、1か月程度の回答期間を設定している。（回収率は86%）アンケート結果は、センター的機能を果たしているかを検証する材料として活用している。アンケートの質問項目を工夫しており、例えば地域教育支援専門家チームを知っているか、学校見学・教育相談をいつでも受け入れることを知っているかなど、学校のセンター的機能を地域へ周知させる質問内容にもなっている。さらに改善のための具体案を直接記述してもらっている。</p> <p>保護者や児童生徒に対してもアンケートを実施しているが、授業参観日の保護者全体会の場で保護者アンケートの結果を報告し、寄せられた質問に学校として回答し、意見交換する機会を設けている。さらに、保護者に対しては相談などができる談話室の設置や玄関への意見箱の設置など、保護者からの意見等をいつでも受け入れられる体制を整えている。</p>